



7月10日(水)、旭小学校の3,4年生が海藻おしぼ教室に参加しました。

最初に、DVD「ようこそ海の森へ」を見て、海藻の果たしている役割について学習しました。子どもたちは、海藻の森が「生き物を育てるすみか」になり、「海をきれいにする」働きをしていることを学びました。保護者の方が持ってきてくださった三浦海岸の海藻も、子どもたちに見せることができました。海藻おしぼ協会の野田会長の「海藻と友だちになってください、友だちになれば海を大切にしようと思えるから」という言葉が印象に残りました。

続いて、活動に移りました。台紙となるはがきを水に濡らし、その上に、ようじを使って、海藻を丁寧に広げていきます。各自が思い思いのデザインを考え、素敵な作品ができました。先生方と保護者も参加していました。



作品は、1週間後くらいに、乾燥、パウチされて学校に届くそうです。日本海洋レジャー安全・振興協会や海藻おしぼ協会の皆さん、ご指導ありがとうございました。



7月11日(木)、名向小5年生が、真珠の核入れに挑戦しました。

最初に、小パール隊の皆さんから、核入れ名人の動画も交えて、詳しい説明があり、その後、核入れ体験が始まりました。一人ひとりが、緊張した面持ちで、小パール隊の方たちの指導を受け挑戦します。一人が2個ずつのアコヤガイに、核入れをしていきました。体験を終えた子どもたちのほとんどが、「緊張した」「難しかった」と、うれしそうに話しているのが印象的でした。

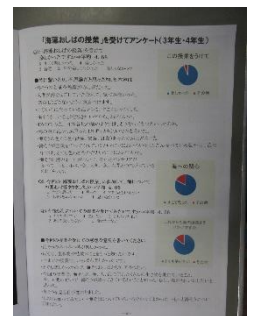


最後に、代表の児童が、「核入れは難しかったけれど、小パール隊の皆さんのおかげで、何とかできた」と、感想を述べていました。

今回核入れされたアコヤガイは、小網代湾に戻され、そこで約10か月育てられます。そして、来年の5月頃には、子どもたち自身の手で取りだされる予定です。



6月20日(火)に、南下浦小学校で行われた海藻おしぼ教室の実施報告書が届きました。海藻おしぼ協会の皆さん、ありがとうございました。教室の様子、子どもたちの表情、出来上がった作品などがまとめられています。アンケートは、本研究所がまとめたものです。子どもたちが、大変満足した様子がうかがわれます。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで